

■呉秀三 日本の精神医学を開拓し、多くの近代精神医学者を育てた。

くれしゅうぞう

薩摩藩士密航1865＝ 江戸青山の広島藩邸で、_広島藩医呉黄石の三男に生まれる。母せきは箕作阮甫の長女。

明治維新・・1868＝ 3歳：

幼少時より、漢籍を学んで漢学を愛好し、5、6歳の頃には「唐詩選」「三体詩」を暗記していたという。

明治6年政変 1873＝ 8歳：

佐賀の乱・・1874＝ 9歳： 第一番小学校鞆絵学校に入学、

西南戦争・・1877＝12歳： 上等小学第四級を卒業、
大久保暗殺・1878＝13歳： 東京外国語学校に入って、ドイツ語を学ぶ。
琉球処分・・1879＝14歳： 東京大学医学部予科に入学、

明治14年政変1881＝16歳： 父母を相次いで亡くす。

岩倉具視没・1883＝18歳：

内閣発足・・1885＝20歳： 東京大学予備門分校を経て、
帝国大学始・1886＝21歳： **_東京大学医学部に入学、**
国民之友始・1887＝22歳： 東京医学会の雑誌委員を囑託され、
初の対等条約1888＝23歳： 会頭から賞される。
帝国憲法発布1889＝24歳： ***早くも、「精神啓微」を出版。**
帝国議会議始・1890＝25歳： **_卒業。大学院に入り、精神医学を専攻、**
足尾鉍毒始・1891＝26歳： 助手兼東京府巢鴨病院医員になり、**_初代の精神病学担当教授梶傲の指導を受けて、最初の論文「日本の不具者」「精神病者の書態」を著し、**

大本教・・・1892＝27歳： この前後、裁判に関わる精神鑑定にも携わる。巢鴨病院医員になる。**_「精神病者の書態」を出版。同郷の富士川游らと、杉田玄白らが小塚原刑場で観職した日に、先哲追薦会を挙行し、(奨進会)を発足させ、**

郡司千島探検1893＝28歳： **_富士川游と「日本醫籍考」著すなど、早くから医学史にも深い関心を持ち、**
日清戦争始・1894＝29歳： 単著で「精神学集要」前編と、
日清戦争終・1895＝30歳： 同後編を、増田知正・富士川游と「日本産科叢書」を編纂、
白馬会・・・1896＝31歳： 法医学教授と共に「法医学提要」を刊行。**_助教授となり、**
八幡製鉄始・1897＝32歳： **日本の精神医学・医療の草創期に幅広い活動を展開してきた梶傲が早世し、そのすべてを引き継ぐことになる。巢鴨病院医長に就任後、オーストリア＝ハンガリー帝国・ドイツ帝国へ留学。**
子規句歌革新1898＝33歳： スペインのマドリードで開かれた万国衛生会議に出席、ウィーン大学のオーバーシュタイナーに神経病理学を学び、エービング、ハイデルベルク大学のクレペリン、ニッスル、エルプに師事。

Bushidou・・1899＝34歳： 留学1年延長を認められる。
アノ国産化・1900＝35歳： 東京帝国大学医科大学に論文を提出し、**_医学博士となり、**
田中正造直訴1901＝36歳： ***帰国。教授になり、精神病学講座を担当するとともに、巢鴨病院医長にも復職し、**
教科書疑獄・1902＝37歳： 制度変更で、院長。**_日本初の精神衛生団体(精神病者慈善救済会)を組織し、民間精神運動に第一歩。**
日比谷公園・1903＝38歳： 内科教授三浦謙之助と共に{日本神経学会(現在の日本精神神経学会)}を創立し、{神経学雑誌)を創刊、とくに、クレペリン学派の新しい精神病学に影響を受け、精神病患者の監護法を改める。

日露戦争終・1905＝40歳： 万国脳髄研究会議の日本委員。
満鉄発足・・1906＝41歳： 衆議院で、医学校に精神科を設置する法案が可決、日本医学会でも、医学専門学校に精神病学講座、帝国大学に精神病室を設けることが急務と決議され、

韓国反日暴動1907＝42歳： 長崎医専、千葉医専を皮切りに、
アヲキ創刊・1908＝43歳： 愛知医専、
伊藤博文暗殺1909＝44歳： 金沢医専、5年後には、新潟医専に精神病学講座が設けられ、全てに呉門下が就任。

韓国併合・・1910＝45歳：

大逆事件判決1911＝46歳： 海軍医学校精神病学教授。

明治天皇没・1912＝47歳： 勲三等瑞宝章。

第一次大戦始1914＝49歳： 外祖父の「箕作阮甫」を著し、
21ヶ条要求・1915＝50歳： **_ (奨進会)の事業部門を独立させ、(日本医師協会)とする。**

ロシア革命・1917＝52歳： 「呉黄石先生小傳」。巢鴨病院の移転新築計画が始まる。

本格政党内閣1918＝53歳： 富士川游と選集校訂「東洞全集」。**_ 櫻田五郎との共著「精神病者私宅監置ノ實況及び其統計的觀察」の中の一節は、精神病患者を、座敷牢ほか様々な身体的拘束から解放する言葉として有名で、のち、松沢病院の敷地内に建立された銅像の足元にも記された。私宅監置の実態を暴き出したこの書によって、**

ベル仁条約・1919＝54歳： ***精神病院法が制定された。巢鴨病院が移転してできた府立松沢病院の初代病院長になり、**

大暴落・・・1920＝55歳： 欧米に出張、連合国神経学会議に出席し、各国の精神病院の建築状況を視察、

原敬首相暗殺1921＝56歳： フランス神経学会会員、イギリス・アイルランド心理学会在外名誉会員。ニューヨーク精神衛生協会会員として万国精神衛生会議の準備のため、名誉副会長、

治安維持法・1925＝60歳： 正三位。***定年退官により、名誉教授。松沢病院長も退職すると、**

日本時代始・1926＝61歳： 「シーボルト先生其生涯及功業」を刊行、

金融恐慌・・1927＝62歳： オランダ女王より、オランダジュナツソウ勲章。{日本医師協会)を{日本医史学会)とし、

共産党事件・1928＝63歳： 理事長に就任。

海軍軍縮条約1930＝65歳： 万国精神衛生会議が開催される。ドイツのハンブルグ大学から名誉金牌。

満州事変・・1931＝66歳： 「シーボルト先生其生涯及功業」の独訳の完成に心血を注いだことから、尿毒症が悪化したといわれ、

五一五事件・1932＝67歳： 「華岡青洲先生及び其外科」を著してまもなく、**_没した。 勲一等を授与された。**
門下生の何人かを挙げれば、森田療法の創始者森田正馬、{神経学雑誌)創刊期に編集・雑務をひとりで担った松原三郎、青山病院長の一方で著名な歌人齋藤茂吉、松沢病院で本格的作業療法を展開、敷地内に、その成果たる加藤山・將軍池を遺すことになった加藤善佐次郎。